

2018年4月8日

## 福音書からのメッセージ

婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。（ヨハネによる福音書 20 章 29 節）

先週、教会では復活日(イースター)のお祝いをしました。今日の福音書はイエス様が復活された日の夕方と、その八日後の日曜日のお話です。

イエス様の復活のすぐ後ですから、さぞかし弟子たちは喜びであふれていただろうと思いきや、どうもそうでもないようです。彼らは家の戸に鍵をかけていました。「ユダヤ人たちを恐れて」とあるように、自分たちが危険な状況に陥るのが怖かったのでしょう。しかし彼らはこの日の朝、マグダラのマリアから復活のイエス様に出会ったということを告げられたはずで、その言葉が受け入れられなかったのでしょうか。

わたしたちは先週の日曜日、復活日を祝いました。イエス様のご復活を心から喜び祝うことができたという方もおられるでしょう。しかし同時に、どこか引っかかっているという方もおられるかもしれません。イエス様のご復活が理解できない、自分にとって何の意味があるのかわからない、信じることができないという方もいたのではないのでしょうか。マグダラのマリアの話聞いても信じられず、戸に鍵をかけた弟子たちのように、自分の心を閉ざしてイエス様を受け入れることができない方も。

今日の福音書は、その恐れや不安の真ん中に来て下さるイエス様の姿を描きます。復活の日の夕方に、そしてその八日後に、「あなたがたに平和があるように」と言われたイエス様を伝えます。この物語はわたしたちに二つのことを教えてくれている



ように思います。

一つ目は、イエス様は必ず来てくださるということです。今どうしても心を開くことができなくても、自分のところになんか来てくれるはずがないと思っていたとしても、イエス様はその中に来てくださいます。

そして二つ目は、イエス様は何度でも来てくださるということです。お墓でイエス様にであったという女性の話を、弟子たちは信じることができませんでした。しかしその弟子たちの元に、イエス様は現れました。さらにその場にいなかったトマスの方に、次の日曜日イエス様は現れました。同じように何度でも、イエス様は現れてくださいます。わたしたちの元にもまた、イエス様は来てくださるのです。

復活のイエス様との出会い、それは一人ひとりにとって違った物語でしょう。しかしイエス様は、わたしたちのもとに来て、「あなたがたに平和があるように」と語り掛けてくださいます。そのことを信じて、歩んでいきたいと思えます。

わたしたちが信じない者ではなく、信じる者になるために、イエス様は来られます。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>